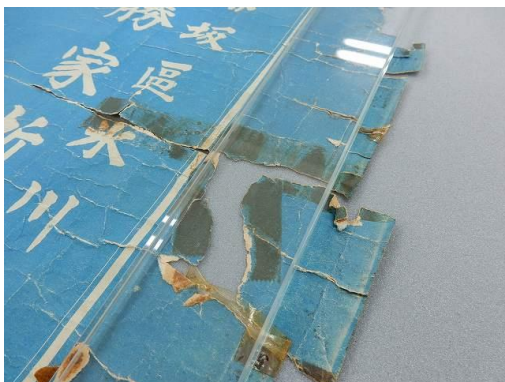
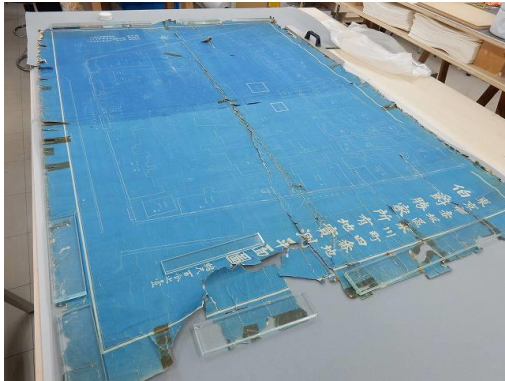


状態

「伯爵勝家所有地実測平面図」は、2紙が貼り繋がれた大型の青焼き図面で、右半分と左半分で青色の発色が微妙に異なるのが特徴です。きつく巻いて紐で縛られていたため、強い巻き癖がついており、紙端は潰れて破れや折れが生じていました。

さらに巻きを開いてみると、中央で上下に裂け、紙片の分離、周縁の欠損が多数見受けられました。部分的に、クラフト紙やセロハンテープによる補修痕もあり、経年により茶変色化したテープ痕が見られました。

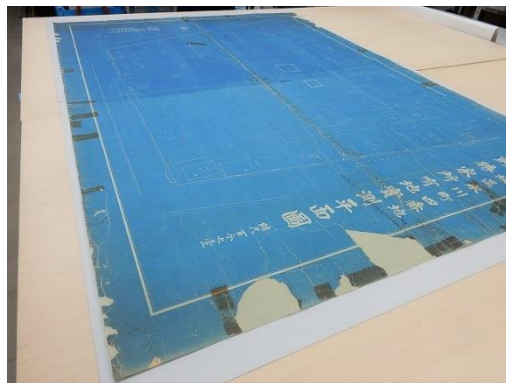
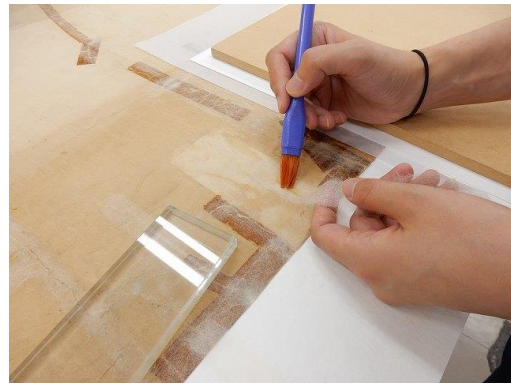
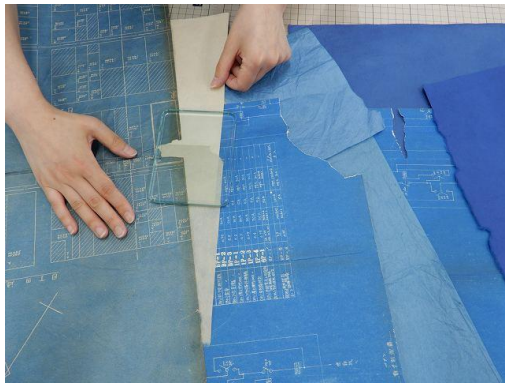


修復処置

修復処置では、過去の補修紙やテープを除去し、ドライ・クリーニングを行った後、全体の巻き癖と細かな折れや皺を伸展しました。破損箇所の修補作業時には、勝海舟記念館学芸員の立ち会いのもと、大きな欠損箇所に対して使用する補填紙について打ち合わせを行いました。

青焼き図面は今後も褪色が進みやすいので、補填紙の色は現時点の青色に合わせるのではなく、白抜き文字部分や、褪色が進んだ周縁、ほかにも経年で褪色した青焼き図面のサンプル等とも比較し、馴染みの良い染色和紙を検討し適用しました。





保管方法

処置後の図面は、巻き直してアーカイバル容器(光や温湿度、埃、酸性、アルカリといった劣化を引き起こす外的要因から、資料を守るための無酸の弱アルカリ性保存容器)へ収納しました。処置前と同じように巻き直すと、再び巻き癖がつき、紙端が潰れ、損傷の原因となってしまいます。そのため、巻き癖や皺がつきにくいよう中性紙製紙管に巻きつけました。外側をポリエステルフィルムで保護した後、安定した保管環境で保存するためのアーカイバル容器「卷子用台差し箱」へ収納し、処置を完了しました。

